

《先週の説教・御言葉》

4/12 ルツ記 1：15～18 「あなたの神は私の神」

後藤正樹 牧師

* 暗黒の時代の中で

ルツ記の全体のテーマは「主に信頼する者の祝福」です。しかしルツ記は霊的にも物質的にも危機にあった時代でした。その時代に生きたエリメレク一家。しかし家族にも夫と愛する息子たちの死がありました。苦しみの時こそ、神様への信頼が試される時です。また神様ご自身が私たちの信仰を強めてくださり、神様に信頼する心を養ってくださり、信頼する者と変えてくださる時でもあります。

* 神が語られない？

ナオミは夫たちの娘ルツとオルパにモアブに帰るように言いました。オルパは帰りましたがルツは帰りませんでした。彼女は神様を信じる民とその母ナオミ、そして神様に従って歩むことを選びました。彼女はすべてを支配する全能者の御手の中にあると信じていました。苦しみの中にありましたが信じることをあきらめていませんでした。ルツ記は神様が直接登場人物に語りたり姿を現したり使者を遣わすこともありません。しかし彼らは支配者である神様の約束を信じて決断し生きていました。私たちは聖書の神様が私にも今も同じように働かれると信じているのでしょうか。私たちが聖書を読むとき聖書の中にある神様の約束は変わらず、神様の愛のある関わり方は今も変わらない。今私たちには神様の声が聞こえなくとも聖書の中に神様の声が記されています。変わらない神様だからこそ私たちはこの神様に全幅の信頼をよせることができます。

* 信仰の戦い

信仰は戦いです。神様の約束その力を信じたいと願う自分と心から信じていくことのできない自分。そのせめぎ合いの中でどちらを選択していくか。従えなくても神様は私たちを見捨てないしその愛は変わらないです。でも従わないなら神様の備えてくださっている祝福、恵みは分かりません。神様に信頼するからこそ分かる恵み、苦しみの中での主との交わりがあります。祈りつつこの信仰の戦いに勝利していきたいと願います。

* 大麦の刈り入れの始まったころ

2人がベツレヘムに到着した時期は今の4月頃。私たちも新しく始まった年度って不安や期待がある時期。私たちは神様に信頼していきたいと願います。神様の約束、聖書のみことばが私たちにはある。今も生きて全てを支配しておられる神様が共にいてくださる。だから恐れずに確信をもって信仰によって踏み出していきたいと願います。暗い時代にも私たちを襲ってくるあらゆるものにも屈さず、ただ主だけに信頼して歩いていく者とさせていただきましょ！神様に信頼する者に神様は平安と祝福を与えてくださいます。